

■令和5(2023)年度 第2回かわさき市民アンケート 実施概要

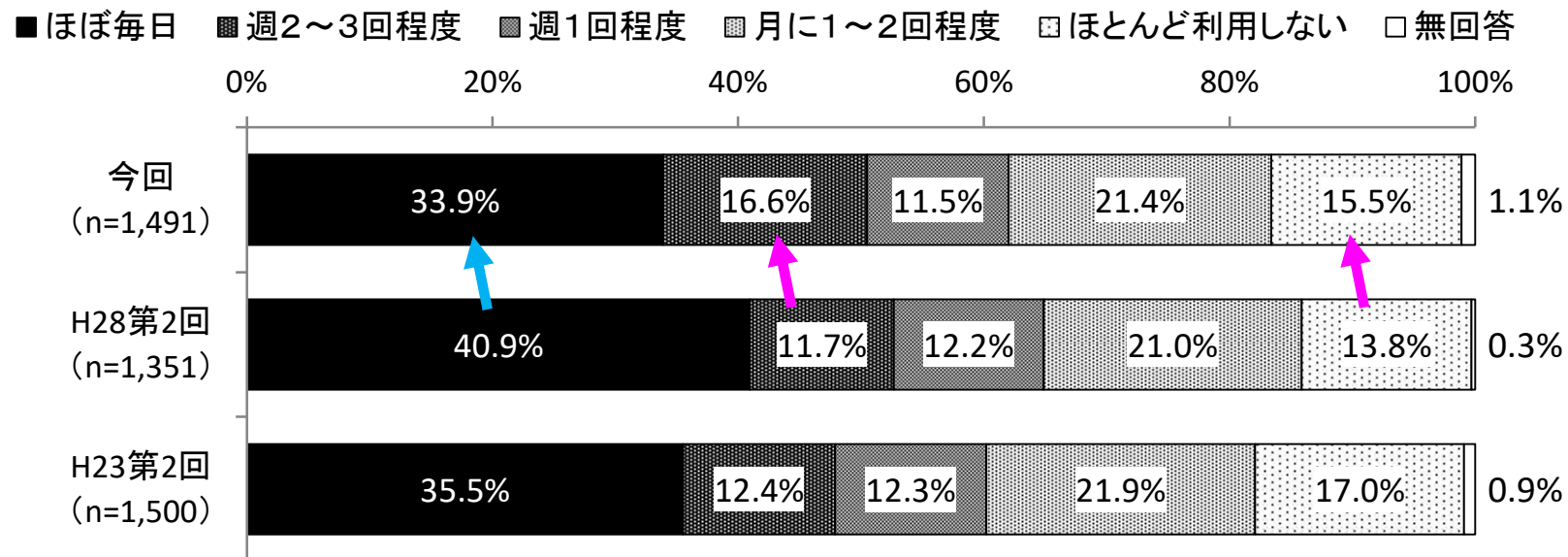
調査の地域	川崎市全域
調査の対象者	川崎市在住の満18歳以上の個人
標本の抽出方法	住民基本台帳からの層化無作為抽出
標本数	3,000標本(令和5(2023)年9月抽出)
有効回収数	1,491(有効回収率:49.7%)
調査方法	郵送調査(郵送配布・郵送回収)
調査期間	令和5(2023)年10月31日(火)~12月8日(金)
調査テーマ	(1) 定住状況について (2) 生活環境の評価について (3) 関心ごとと行動範囲について (4) 市政に対する評価と要望について (5) 川崎市の都市交通について (6) 川崎市が発行する説明資料・広報等の新しい体裁について (7) 新型コロナウイルス感染症について

市民アンケートの結果速報 ②鉄道の利用状況

2

市民の鉄道利用状況を見ると、「ほぼ毎日」利用している市民の割合が33.9%、「週2～3回程度」が16.6%、「ほとんど利用しない」が15.5%。
平成28年の結果と比べると、鉄道をほぼ毎日利用する市民の割合が低下し、ほとんど利用しない市民や、週2～3回程度利用する市民の割合が上昇していることから、全体的に**鉄道の利用頻度が低下している**。

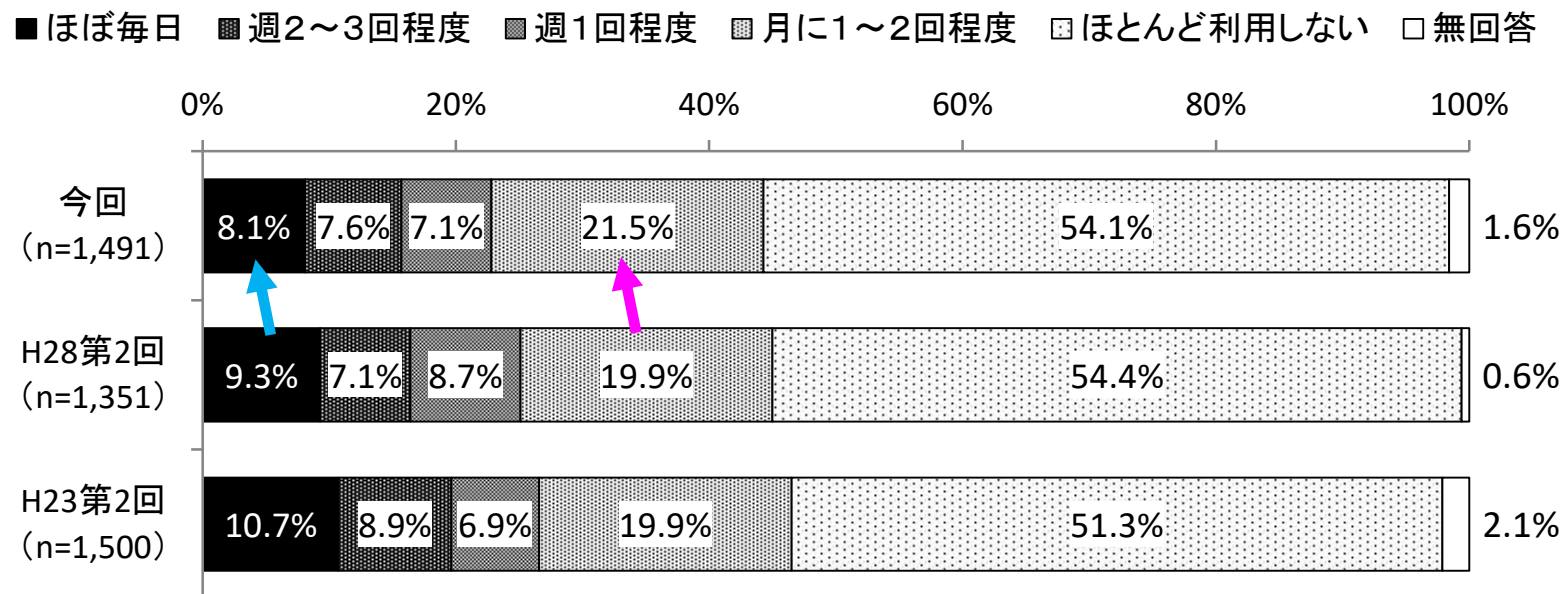
質問「あなたは普段、どの程度鉄道を利用していますか。」



市民アンケートの結果速報 ③バスの利用状況

市民のバス利用状況を見ると、「ほぼ毎日」利用している市民の割合が8.1%、「週2～3回程度」が7.6%、「ほとんど利用しない」が54.1%。
平成28年の結果と比べると、バスをほぼ毎日利用する市民の割合が低下し、月1～2回程度利用する市民の割合が上昇していることから、全体的に**バスの利用頻度が低下している**。

質問「あなたは普段、どの程度市内の路線バスを利用していますか。(自宅からの利用には限りません)」



2. 市民アンケートの結果速報 ④市の交通政策について

市の交通政策について市民が重要と考えるもの(※)は、「歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などへの安全対策」(92.3%)、「災害に強い交通網の整備」(90.5%)、「踏切の解消など鉄道を横断する安全対策」(86.7%)、「電車の車内混雑の緩和」(85.1%)の順となっている。なお、この4項目は、「重要である」と回答した市民の割合が50%を超えている。

※「重要である」「やや重要である」の合計回答割合(文章カッコ内の数値)に基づく

質問「あなたは、今後の交通政策において、次の(1)～(16)の取組についてそれぞれの程度重要だと考えますか。

過去実施のアンケートでの「重要である」の回答割合(%)。「-」は当時はなかった項目

